

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 ニュース ■3面 読者/まんが/パズル/俳句
- 4面 筋力アップ/メディア/どうする原発 ■5面 憲法講座/ホット ■6面 自転車用ヘルメット努力義務に/文化情報/母の歴史 ■7面 新婦人のページ/自然とあそぼう!



横浜市・酒井たえ子(76)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

世界で最初に飢えるのは日本!?

本気で食料自給率向上を



上: 塩害で稲が枯れた田んぼ (新潟市北区)。河口から10km上流で、乾いた田んぼに川の水をポンプで給水したところ、日照り続きで流量が少なくなった川に海水が入り込んでいたため、稲が枯れる被害が発生 (写真提供: 渡辺真嗣さん)



左: 豊かに色づく田んぼ (和歌山県紀の川市 写真提供: 高橋範行さん)

異常気象が通常気象のようになり、大洪水、大干ばつが頻発して、世界も日本も食料の供給が非常に不安定です。中国は、14億人の国民

異常気象、戦争… 自国優先で逼迫する世界の食料

気候変動、戦争、農業政策の失敗…など、日本の食と農業をめぐる現状について、東京大学大学院教授の鈴木宣弘さんに聞きました。

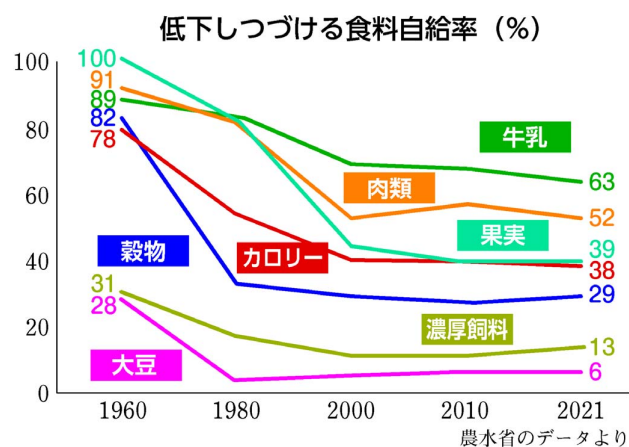


東京大学大学院 農学国際専攻教授 鈴木宣弘さんに聞く

すずきのぶひろ

1958年 三重県生まれ。東京大学農学部卒業後、農林水産省に入省。2006年から現職。著書に『世界で最初に飢えるのは日本』(講談社)、『マンガでわかる日本の食の危機』(方丈社)、『農業消滅』(平凡社)など多数

が1年半食べられるだけの穀物備蓄を目的に食料を「爆買い」し、それに紛争リスクの高まりがさらに状況を悪くして、世界の食料供給は逼迫してきています。ウクライナ紛争の収束が見通せないなか、ロシアやベラルーシは「日本は敵国だから売らない」と言い、世界の穀倉であ



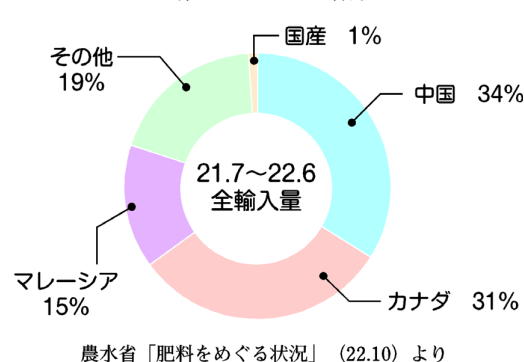
この状況に、インドは「外国に売ってる場合じゃない」と、自国民の食料確保のため、小麦と米

の輸出規制を始めました。インドの米と小麦の生産輸出量は世界1〜2位、米の輸出は世界の4割を占め、これを止めたことで穀物価格が高騰しています。今や輸出規制をする国は30カ国です。

日本は備蓄1・5〜2カ月 実質の食料自給率9・2%

日本の穀物備蓄は1・5〜2カ月分、食料危機に対する準備ができていません。海外に穀物を買付けに行っても物資はなく、飼料の価格高騰も止まりません。また、日本は化学肥料を使う農業

肥料は99%輸入に依存



日本の野菜の種は9割が輸入、ほとんどがF1という1世代だけしか同じ形質が出ないもので、種を採っても同じ野菜はできません。食料を守るには、在来の伝統的な固有種の種を守り、その種を採って循環させる仕組みを作らなければ、大変なことになることがわかります。

アメリカいいなり 「食料は輸入すれば良い」との政策

日本の食料自給率低下は、第2次世界大戦後のアメリカによる占領政策が大きく影響しています。朝鮮戦争後に生じたアメリカの膨大な余剰農産物を日本で処分する

